



岐阜陸上競技協会広報

第6号

平成30年5月12日発行

一般財団法人 岐阜陸上競技協会

事務所／〒502-0841 岐阜市学園町3-49 仁科ハイツA102

TEL (058) 294-6494 FAX (058) 294-6491

E-mail gifurik-jim@rhythm.ocn.ne.jp



～会長就任1年をおえて～

会長 尾藤 義昭

光陰矢の如し”という言葉はまさに今の私の心境を語るものではないかと思います。昨年、田口利正氏から会長職を引き継ぎあつという間の一年間でした。多くの事業を大過なく成功裏に終えることができましたのも全協会員の努力の積み重ねによるものであり一年間の労を心からねぎらいたいと思います。また、本協会の事業に多大なるご支援ご指導を賜りました(株)ヒマラヤ様をはじめ岐阜県、各企業、関係機関の皆様にはご厚情に感謝申し上げるとともに次年度も本年同様のご支援を賜りますことをお願い申し上げます。

さて、昨年はリオ五輪において男子の4×100mRの銀メダル・競歩においてメダル獲得の朗報に沸いた日本陸上界でした。本年は9月に福井で開催された日本学生選手権において桐生選手(東洋大)が日本短距離界念願の9秒台、9秒98を樹立されました。折しも視察に出向いていた本協会の副会長、専務理事他数名がその歴史的瞬間に立ち会うことになりましたが、会場全体に沸き起こった興奮は今までに体験したことがないものであったと報告を聴きました。記録は破れるものとよく言われます。先人たちの記録を目標に挑戦、努力することは新たな可能性を生む原動力となります。桐生選手の9秒台達成は、日本の陸上のレベル向上や若い選手、指導者が飛躍するための大きな起爆剤となることを期待したいと思います。そして、我が岐阜県陸上界からも夢の9秒台と言われた日本新記録を樹立された選手および関係者の皆様に敬意を表したいと思います。

本年度も岐阜県選手・指導者の皆さんが国際大会や全国大会で活躍してくれました。詳細は平成29年度岐阜県陸上競技十傑表に記載してあるのぜひご覧いただきたいと思います。選手・指導者の功績を讃えるために岐阜県陸上競技協会として毎年三月に表彰式を開催していますが、日本陸上界の第一線で活躍中の青木選手(東邦銀行)、競歩日本学生4連覇達成五藤選手(中部学院)、全国高校総体男子4×100mR優勝(岐阜県高校連史上初)岐阜聖徳学園チームには多くの方々からその偉業を讃えてほしいとのご意見をいただき理事会での審議、承認を経て特別勲功章を贈呈させていただきました。今後も協会として選手、指導者の応援を様々な形ですすめていきたいと考えています。選手、指導者の皆さんのさらなる活躍を期待しています。

2018年6月7日～10日の4日間、長良川競技場において日本初の第18回アジアジュニア陸上競技選手権大会が開催されます。2月27日には県庁前で、3月3日には長良川競技場でカウントダウンセレモニーがそれぞれ盛大に催されました。後は本番を待つだけとなりました。準備にあわただしい毎日ですが、岐阜県陸上競技協会一丸となって大会を成功させたいと思います。全協会員の協力をお願いしたいと思います。

2018年度も岐阜県陸上競技協会にとって飛躍の一年になりますことを祈念いたします。



「2017年を振り返って」

副会長 小倉 新司

日頃より岐阜県陸上競技協会の諸行事、事業に対してご理解とご協力、ご尽力に対して御礼と感謝申し上げます。2月9日平昌オリンピックが開幕し連日選手の活躍が報道されています。羽生選手や小平選手の金メダルは勿論、連日代表選手の競技人生を懸けた活躍に感動しています。そんな中、岐阜県陸上競技協会の2017年度を振り返ってみたいと思います。

1.田口会長から尾藤会長へ

長年尽力いただいた田口利正会長に替わり、尾藤義昭新会長を迎え、新役員共々歴史の重みを感じながら新たな気持ちでスタートを致しました。大会時における尾藤会長の言葉は、協会役員にとって新鮮な助言となり、今後協会の発展に成果となって表れてくることと思います。

2.岐阜県協役員・審判・会員・選手の活躍

さて本年度も岐阜県陸上競技協会の活動は、専務理事を始めとする各役員・審判の方々や関係者のご尽力によりここまで多大な成果を上げる事ができました。特に専門委員会の活動は、委員長を中心に年間を通してそれぞれの活動方針、役割を共有し、皆様の協力により多大な成果を得る事が出来たのではないかと思います。改めて感謝の気持ちと敬意を表したいと思います。

特に第7回高橋尚子杯ぎふ清流ハーフマラソンは、年度当初の4月23日開催となり大変忙しい中、ゴールドラベルの大会として、実行委員会が中心となり関係各位のご尽力、協力により大きな成果を上げ成功裏に終える事が出来ました。

協会の活躍度は選手の活躍度でもあると言われる。今年度振り返って特に活躍が印象に残っている結果として岐阜聖徳学園高校の全国高校総体における4×100mRの優勝、中部学院大学五藤怜奈選手の全日本学生選手権10000m競歩4連覇、岐阜大学赤松諒一選手の全日本学生選手権走高跳優勝、山下航生選手の国体少年共通円盤投2位、全日本ジュニアユース選手権砲丸投・円盤投2種目優勝、間宮里菜選手の全日本実業団選手権棒高跳優勝等が挙げられると思います。これらは選手や指導者の努力による成果と共に岐阜県陸上競技協会の誇りとすべき成果だと思います。この成果が2年後に開催される東京オリンピックや国際大会等更なるレベルの高い大会に繋がる活躍を期待したいものです。更には指導者のレベルアップと共に国体での天皇杯、皇后杯の成績や都道府県対抗駅伝、全国高校総体、全国高校駅伝、全国中学総体、全国中学駅伝、全国小学生大会等での活躍・成果を期待したいと思います。

3.第18回アジアジュニア陸上競技選手権大会に向けて

2018年度の岐阜県陸上競技協会最大行事として第18回アジアジュニア陸上競技選手権大会が開催されます。国内初の開催として本県メモリアルセンター長良川競技場を会場に6月7日から10日にかけて開催されます。陸上競技の国際大会開催は、本県陸上競技協会の歴史の大きな1ページとなる開催となります。日本陸上競技連盟、岐阜県との連携を密に万全の態勢、準備を重ねて本大会を皆様の協力により迎えたいと思っています。特に競技運営には、今までの審判技術は勿論更なる技術向上を重ね高いレベルの競技運営を目指し協力をお願いいたします。またこの大会が本県陸上競技のレベル向上に多大な成果と成ることを期待しています。

最後になりましたが、2018年度も岐阜県陸上競技協会の発展、振興並びに岐阜県選手の活躍と、特に4月開催の第8回高橋尚子杯ハーフマラソンと6月開催の第18回アジアジュニア陸上競技選手権大会が大きな成果を得て成功裏に開催出来ますよう、関係各位の皆様にご理解、ご協力頂きますようお願い申し上げます。

第18回 アジアジュニア陸上競技選手権大会」開催へ向けて・準備報告

常務理事 溝際 佳典

日本で初めての「アジアジュニア陸上競技選手権大会」が岐阜県で開催されることになりました。本年度の岐阜陸上競技協会の大きな大会運営になります。

2月6日(火)に第2回組織・実行委員会が行われ、大会要項・組織実行委員会委員・予算(予算額2億6800万円)・今後のスケジュールなどが承認されました。

【大会要項の抜粋】

・大会名称

第18回アジアジュニア陸上競技選手権大会
The 18th ASIAN JUNIOR ATHLETICS CHAMPIONSHIPS

・主催

アジア陸上競技連盟(AAA)

・主管

日本陸上競技連盟(JAAF)

・共同主管

岐阜県(アジアジュニア陸上競技大会推進室を設置)

・運営協力

岐阜陸上競技協会

・後援

岐阜県教育委員会、公益財団法人岐阜県体育協会

・期日

2018年6月7日(木)～6月10日(日)

・場所

岐阜メモリアルセンター長良川競技場

・種目

男子(22種目)、女子(22種目)

・参加資格

アジア陸連加盟国(45の国と地域)の選手で、2018年12月31日現在で16歳～19歳の競技者、個人種目は各国2名、ホスト国(日本)3名、リレー種目は各国1チーム

・競技規則

国際陸上競技連盟(IAAF)競技規則による

・宿泊

本部ホテル:岐阜都ホテル、選手村ホテル:岐阜都ホテルなど
8ホテル

・その他

6月6日(水)テクニカルミーティング(監督会議)、第3回組織・実行委員会、AAAレセプション

【岐阜事務局の岐阜県 清流の国推進部地域スポーツ課 アジアジュニア陸上競技推進室は】

- ・100日前記念(カウントダウンボード除幕式:2月27日、スタートアップイベント:3月3日)
- ・ボランティア事業(通訳ボランティアの募集など)
- ・高校生アテンダント事業(高校生との直接交流を目指す)
- ・1校1国応援事業(小中高が1国・地域への応援活動)
- ・県民参加型応援メッセージ事業(応援モザイクボード、応援メッセージ映像)などを企画し実施

【岐阜陸協は、大会運営・競技会の準備として】

- ・競技役員330名、競技補助員300名 + NTO20名程度を予定
- ・審判マニュアルの作成
- ・競技注意事項の作成
- ・タイムテーブルの作成(公式練習計画含む)
- ・審判研修…2月25日(土)各部署の主任・副主任会議(各確認項の説明、打合せ)
- ・競技機材の配置計画(競技場公認検定、情報機材点検、防護ネット・投擲器具などの納品)
- ・リハーサル大会…5月14日(日)中部実業団選手権大会2日目
- ・6月4日(月)～5日(火)競技場などの直前準備(競技役員・補助員の確保)など



専門委員会報告

総務委員会

1.高橋尚子杯ゴールドラベル大会開催

平成29年度は「高橋尚子杯ぎふ清流ハーフマラソン」がゴールドラベルの大会として開催されました。外国人選手を含む多くの一流ランナーが参加し、素晴らしいコースコンディションの元で大会グレードにふさわしい大会運営がされました。

平成30年度は8回目の大会となります。総務委員会として細かな問題点を改善することでアスリートファーストを実現し好記録の出現を期待するとともに、市民ランナーからもさらに愛される大会となるよう努力していきます。

2.知的障がい者全国大会開催

また、8月には「日本ID陸上競技選手権大会(知的障がい者大会)」が開催されました。全国から多くの選手が参加し、選手及び監督の方々より高評価をいただきました。2020年東京パラリンピックの開催が近づき障がい者スポーツがさらに注目を集める今日、来年度も本県でこの大会が開催されます。さらに細かな配慮を見直し、障がいをもつアスリートが競技に集中できる人的・物的環境整備をしていきたいと思っています。

3.アジアジュニア陸上競技選手権大会準備

また、6月に日本で初めての開催となる「アジアジュニア陸上競技選手権大会」についての準備は現在着実に進んでいます。岐阜陸協は初めての国際大会の運営を行います。周到的な準備の元、役員が一丸となって大会の成功に結び付けたと思っています。

【平成29年度 栄章受賞者表彰実施】

3月3日(土)長良川スポーツプラザに於いて表彰が行われました。
※日本陸上競技連盟表彰等は別途実施

公益財団法人 日本陸上競技連盟表彰

栄 章	氏 名	所 属
秩父宮章	安福 弘典	岐阜陸上競技協会
高校優秀指導者章	吉村 優治	岐阜工業高等専門学校教員
中学優秀指導者章	松原 有宏	中津川市立坂本中学校教員
高校優秀選手章	稲福 颯	岐阜市立岐阜商業高等学校
中学優秀選手章	岩垣 勇司	飛騨市立神岡中学校

少年少女陸上競技指導者表彰(安藤スポーツ・食文化振興財団)

栄 章	氏 名	所 属
安藤百福章	平塚 光明	丹生川陸上スポーツ少年団

○一般財団法人 岐阜陸上競技協会 表彰

栄 章	氏 名	所 属
功 勞 章	市橋 達朗	若鯉クラブ岐阜
	平岩 徹	チームミズノアスレチック
	左高 英希	若鯉クラブ岐阜
	奈波 宏和	岐阜教員クラブ西濃
勲 功 章	赤松 諒一(4)	岐阜大
	間宮 里菜	岐阜陸協
特別勲功章	青木 沙弥佳	東邦銀行
	五藤 怜奈(4)	中部学院大
	佐々木 耀(3)	岐阜聖徳高
	伊藤 大知(2)	
	松田 太一(3)	
	豊島 優(3)	
小椋章 (最優秀選手章)	山下 航生(2)	市岐阜商高
	五藤 怜奈(4)	中部学院大
加藤章	青木 沙弥佳	東邦銀行
	赤松 諒一(4)	岐阜大
	齋藤 文孝	SELECT
	堀 優花	パナソニック
	藤本 峻介(2)	岐阜経済大
	小池 譲也(2)	大阪体大
	佐々木 耀 (3)	岐阜聖徳高
	川口 修平(1)	岐阜聖徳高
田口章	村田 幸介(3)	梅林中
	高橋 ユージン(3)	
	遠山 凌平(3)	
	村田 翔夢(3)	
	中村 友梨香(2)	大垣東中
	後藤 里奈(2)	
	中迫 紗穂子(3)	
	中迫 佳穂子(3)	
記念章	佐々木 耀(3)	岐阜聖徳高
	伊藤 大知(2)	
	松田 太一(3)	
	豊島 優(3)	
	山下 航生(2)	市岐阜商高
	稲福 颯(2)	市岐阜商高
	白木 七星(3)	市岐阜商高
	岩垣 勇司(3)	神岡中
	櫻井 希美(6)	相生陸上
	永井 宏典(4)	岐阜経済大
新記録章	間宮 里菜	岐阜陸協
	中田 寛乃(2)	愛知教育大
	金子 春菜(2)	中京大

(委員長 内田 匡俊)

財務委員会

【登録者の拡大と陸上競技に取り組むメリット】

現在、岐阜陸協には、小学生1,700人、中学生3,800人、高校生2,100人、大学生400人、一般1,000人、合計約9,000人の登録があります。

小学生においては、基礎運動能力や体力の向上に効果があり、各団体指導者のご努力や、普及活動の活性化によって、登録者は増えつつあります。

中学生になると、部活動が本格的に始まり、9割近い中学生が部活動に加入する中、陸上競技も人数が多い人気スポーツとなります。陸上は常に自分自身との戦いだということ。0.1秒でも早く、1cmでも遠く…、自己新記録を目指していくなど、中学校指導者による工夫された指導方法が大きな魅力です。

高校生になると、学校の勉強だけでなく、塾や、地域活動、友人関係も含め、生活の幅が広がり、忙しさが増していき、運動部活動への加入率も5割を切ってくるようです。一方、高校での活動には、個人個人でより得意種目に特化しながらも多

様な専門的知識を学び、競技力向上による自己記録との戦いにとどまらず、社会生活での基本的な生活習慣や基礎体力への自信、また、体についての知識が深まるというメリットがあります。

大学生になると、陸上競技としての登録者は激減し、以降は、競技というよりも、ジョギングやランニングなどとして生涯スポーツとして楽しんで取り組む方が多くなります。

選手、家族を問わず、愛好者も含め、一人でも多くの人が、関心をもって陸上競技場に足を運んでほしいと願っています。登録者の増加による人気スポーツ上位ランクとしての定着や、強化の充実による選手育成が競技環境をも向上させていきます。まずは、登録者1万人突破を目指し、今後も普及活動に力を入れ、岐阜の陸上競技の発展に繋げていきたいと思っています。

今後とも、個人、団体、企業からの支援のための協賛広告、バナー広告等にご賛同いただきますよう、ご理解ご協力をお願いいたします。

(委員長 奈波 宏和)

審判委員会

【2017年度を振り返って】

1.はじめに

2017年度も4月から例年と同じように毎週、県内各競技場にて競技会・記録会がありました。審判員のみなさん、協力していただいた学校関係者のみなさん、補助員のみなさんのお力で、どの競技会も大きなトラブルもなく無事開催することができました。ありがとうございます。また、毎週のように審判依頼はがきが届き、年間30日以上も審判活動をしていただける方も多くみえ、競技審判員として支えていただき、ありがとうございます。

全国的に審判員の高齢化が心配される中、岐阜県も確かに高齢化はしていますが、着実に若い審判員も増えてきています。2018年度に向け、新たにB級公認審判員として37名の方が取得していただきました。今後もベテランの方と若い方が一つになり「チーム岐阜」として取り組んでいきたいです。

今年度S級昇格者は、酒井清司さん、山内孝次さん、山本裕史さん、安田貞美さんです。おめでとうございます。これからもよろしく願います。

2.すばらしい岐阜県の審判員!

岐阜陸上競技協会としては、2017年度は日本陸連が主催するような大きな大会の開催はありませんでした。東海関係では、東海選手権大会を無事開催することができました。この大会に向けては、特別な準備をしてきたわけではありません。しかし、大会を円滑に、また大きなトラブルもなく運営することができ、多くの東海地区の方から「さすが岐阜陸協!」といふ評価を受けることができました。これは、日頃から緊張感を持って取り組んでいることや、どの部署も主任やベテランから若い審判員に的確な指示や競技の見方(ジャッジの仕方)が伝えられ、審判

技術の向上が図られているからです。こういった日頃からの研鑽が、アジアジュニア陸上競技選手権大会日本初開催に岐阜県が選ばれた理由の1つになるのかも知れません。自信をもってこれからも頑張っていきたいと思います。

3.アジアジュニア陸上競技選手権大会に向けて

2018年6月、いよいよアジアジュニア陸上競技選手権大会(日本初開催)です。岐阜メモリアルセンター長良川競技場の改修が終わり、準備が着々と進み、開催まで100日を切りました。新聞やニュースでも大きく取り上げられ、注目を浴びています。本大会開催に向けて、競技規則(国際)の理解、競技規則の変更をよく確かめ、準備を進めていきましょう。4月、5月の競技会ではリハーサル(部分的を含む)をしていく予定です。

日本陸連は、アジアジュニア陸上競技選手権大会を2020東京オリンピック・パラリンピックの審判員の研修大会に指定しています。また、アジアジュニア選手権は国際大会ですので、ATOなど国際審判員が指揮を執ります。すでに参加する国際審判員も決定しています。国際審判員や日本陸連からの審判員(NTO)の前でも立派に競技運営ができる岐阜陸上競技協会をアピールしていきましょう。まずは4月から始まる競技会で各部署連携を取り合って、スムーズな運営、競技者が競いやすい競技会、観衆が見ていて楽しめる運営を目指していきましょう。練習2日、本大会4日の計6日間という長い競技会ですので、今から体調を整えていきたいです。みなさんよろしく願います。

(委員長 脇田 篤実)

競技委員会

競技委員会総括

平成29年度は岐阜陸協が主催・協力する下記競技会、道路・駅伝競技の運営を行いました。さらに競技力向上・自己記録更新に向けた選手を運営面からバックアップしました。

補助競技場を利用したの競技会種目の検討や、中学生の100m記録会の実施。普及記録会が浸透し、他県からのエントリーの増加などにより昨年度より参加者数が増加したと考えられます。来年度もこれらの記録会の充実と、各競技会での実施種目や参加制限などを見直し、さらに多くの選手が参加できるように工夫していきたいと考えております。

運営協力した競技会では、8月26日～27日の東海選手権大会は、参加選手も小学生から一般と多く開催規模も大きくなりました。レベルも高く高度な運営が求められる場面でしたが、大きなトラブルなく円滑な運営ができました。また、8月4～6日には日本ID陸上競技選手権大会(知的障がい者大会)が国際ルール適用競技会として開催されましたが、事前の主任会等での運営確認によりトラブルなく運営することができました。

平成30年度には国際大会(アジアジュニア陸上競技選手権大会)が開催されます。さらなる向上を目指して取り組みたいと思います。

強化委員会

強化委員長を拝命してからまもなく1年が経過しようとしています。2017年度は私をはじめスタッフが大幅に若返り、右も左もわからないままの一年間でしたがスタッフ一丸となりなんとか乗り切ってまいりました。

2017年度の大きなニュースといたしましては、なんといっても全国高校総体における岐阜聖徳学園高校の男子4×100mRの優勝ではないでしょうか。岐阜県のみならず、日本全国の陸上関係者を驚かせたことと思います。また、愛媛国体におきましても、成年少年共通男子4×100mRにおいて2004年の埼玉国体以来13年振りとなる7位入賞を果たしました。日本人初の9秒台をマークした桐生祥秀君をアンカーに要する滋賀県の猛追を100分の1秒差で凌いで決勝進出を決めた準決勝のレースは、手に汗握るものでした。短距離個人種目における入賞者が誰ひとりいない中でのリレー種目の決勝進出は正に快挙であり、現地でも全国の関係者から驚きの声と賞賛のお言葉をいただきました。個の力ではなく、リレーメンバーのチームワーク、またチーム岐阜としての結束の強さと戦術が繋がった瞬間だったと思います。リレー種目の入賞は大きなインパクトがありましたが、天皇杯におきましては30位と全国で中位という位置付けは変わらず、目標を下回る結果となりました。これは駅伝にも言えることで、都道府県対抗駅伝大会では男子が21位、女子が23位と目標をやや下回る成績となり、個の力を引き上げることが今後の県全体の課題だと反省しております。

来年度の具体的な強化策としましては、①国体選手選考の明確化、②県外での強化合宿、③他府県との合同練習会

小学生が参加できる競技会も充実できるよう普及委員会・強化委員会と連携をとり、タレント発掘・育成の場としても発展させていきたいと考えています。平成30年度も皆様からのご意見を参考にしながら、競技力向上はもちろんのこと会員の皆様に陸上競技を「楽しんでもらえること」を目標に、よりよい競技会運営に取り組んでいきたいと思ひます

平成29(2017)年度主要競技会参加者数						
月	日	曜	競技会名	場所	参加延数	リレー等
4	2	日	普及記録会	長良川・補助	1161人	
	9	日	春季記録会	黒ヶ台	707人	
	15	土	澤田記念・春季陸上	長良川	1101人	
	29	土	スポーツカーニバル	長良川・補助	2267人	
5	27	土	中学学年別	長良川・補助	1231人	321チーム
6	11	日	小学生選手権	長良川・補助	2387人	145チーム
6	24	土	岐阜県選手権	浅中	1016人	78チーム
7	1	土		長良川・補助	2344人	182チーム
	2	日				
	8	土	中学校通信陸上	長良川	2751人	150チーム
	9	日				
	16	日	小学生陸上	長良川	1183人	70チーム
8	22	土	普及記録会	長良川・補助	1323人	
	7	月	強化記録会	長良川	1272人	
9	2	土	県ジュニア陸上	長良川	1540人	
	3	日	秋季陸上	中津川	1272人	
	24	日	県民スポーツ大会	黒ヶ台	272人	17チーム
	8	日	中学新人	長良川	1338人	141チーム
	15	日	清流都市対抗駅伝	県庁～羽鳥		27チーム
11	3	金	秋季記録会	長良川・補助	2906人	
	19	日	岐阜駅伝	中津川～多治見		49チーム
12	2	土	長距離記録会	中津川	348人	

(委員長 川瀬 巧)

を考えております。①に関しましては、選手派遣標準記録を設け、選手、指導者により記録を意識させることを狙いとしております。特に高校区分におきましては、U-18・20日本陸上競技選手権大会を除いては参加資格が標準記録ではないことから、記録への意識が希薄であると感じております。具体的な記録目標を設定することが、強化の一つになると考えております。②につきましては、強化に入る選手の中から更に選手を選抜し、1月に沖縄で合宿を行うことを考えております。③につきましては、他府県の選手と交流をすることで選手の刺激になることは勿論のこと、強化スタッフの研修の場として新たな指導法を学ぶ機会にもなるはずでです。実現へ向けて現在調整中ではありますが、必ず実現させたい事業だと考えております。

さて、本年は日本では初開催となるアジアジュニア陸上競技選手権大会が岐阜県で開催されます。ジュニアのアジアトップ選手が集まり、レベルの高い競技会になることと思います。県内選手、県出身選手の中にも代表候補選手が多数おりますので、是非とも日本代表の座を掴みとり、地元岐阜県でその勇姿を見せていただきたいと思います。



愛媛国体で入賞を果たした男子リレーチーム

(委員長 品田 直宏)

普及委員会

平成29年度の結果について報告させていただきます。

まず、全国小学生陸上競技交流大会では、1つの入賞、全国中学生総合体育大会では、2つの入賞(うち1種目が優勝)、ジュニアオリンピックでは、3つの入賞という結果を収めることができました。

昨年度までと同様に、本年度も全国大会で岐阜県の選手が活躍したことは大変喜ばしいことです。その大きな要因として考えられるのが、各地区の普及委員を中心に行っている練習会や全国大会出場を目指す選手を対象に行っている強化練習会や合宿です。中学生を対象に行っている練習会や合宿では、指導者は岐阜県全体を強くするという意識をもち、学校や地区を超えて指導を継続的に行うことで、選手を強化してきました。その結果、全国中学生総合体育大会に出場する選手が確実に増えてきました。しかし、北海道で行われた全国

大会をピークに参加人数が減少傾向にあります。そこで、種目間トランスファーも視野に入れて指導にあたっています。また、小学生についても、各地区での練習会や全国大会出場者を対象に合宿を行いました。小学生の強化、普及を目指して始まった小学生選手権大会には、本年度40を超えるクラブや個人の参加がありました。クラブチームの中には、100名を超す団体もあり、陸上競技に関心がある小学生や保護者が数多くいることがわかります。さらに、本委員会が主催する練習会に参加していた選手で、高校の全国大会で優勝あるいは入賞をしたり、日本代表として国際大会で活躍したりする選手がでてきました。これも、普及委員会の活動の成果のひとつと考えています。

今後、陸上競技に関心のある小学生が少しでも多く体験できるように、地区の練習会や競技会を運営することで、陸上競技人口の裾野を広げていきたいと考えています。

(委員長 岸 栄二)

駅伝・道路競技委員会

1. ぎふ清流都市対抗駅伝競走大会が盛大に開催

第9回ぎふ清流都市対抗駅伝競走大会は、区間の一部を見直し、9区間から10区間に変更し実施されました。

大会当日は小雨の降りしきる天候でしたが大変多くの駅伝ファンが見守る中、21市6郡の27チームが出場し、下呂チームが第7区の高校男子区間でトップに立ち、8区の一般高校男子区間で2位に付けていた大垣市以下のチームとの差を更に開き、2分16秒の大差で初優勝を飾りました。第2位には大垣市第3位は高山市、また昨年から新設された郡の部では、不破郡が総合でも7位に入り郡の部の優勝をしました。

第10回大会は、10月21日(日)に開催予定ですが、30郡市全てのチームが参加するよう関係機関に働きかけたいと思います。

今後とも大会が永く継続して盛大に開催出来るようにするためには、主催者、協賛者、中継所役員、走路員、自主整理員など関係者の理解・協力が不可欠であります。

2. 委員会活動

年3回(6月・10月・1月)会議を開催し、清流駅伝、各地域で開催の駅伝・ロードレース等の運営やさまざまな問題点を協議・研究しております。

本年度は清流駅伝の1区高校女子(3.4Km)、2区中学女子(2.1Km)の変更を行いました。



(委員長 馬場 保)

記録・情報処理委員会

【平成29年度を終えて】

平成29年度は次年度実施予定のアジアジュニア陸上競技選手権大会に向けた準備の年度でした。

特に情報機器の整備やそれを活用できる審判員の育成に力を注いできました。準備を進めるにあたっては、様々な方々のご協力のおかげもあり、順調に準備を進める事が出来てきています。大会実施での言葉の壁などの不安もありますが、本番実施に向けてできることからコツコツと引き続き準備を進めていきたいと思っています。今後も皆様方のご協力を宜しくお願いします。

【記録活動内容】

- ①記録公認申請100%実施
 - ・競技会終了後30日以内の申請を徹底
- ②岐阜県陸上競技十傑表作成
 - ・ミスの無いように努める

施設用器具委員会

平成30年度のトラックシーズン開幕も間近に迫りました。6月には待望の第18回アジアジュニア陸上競技選手権大会が開催されます。平成24年にぎふ清流国体を開催した長良川陸上競技場・補助競技場の改修、及び競技器具・電子機器も一部が老朽化しておりましたが、会長・副会長・専務理事等執行部の方々のご努力ですばらしい機器が新調されようとしています。

インカメラを備えたRGBフィニッシュレコーダー、電子音スタート発信装置、超音波風速計、光波距離測定装置、円盤・ハンマー投げ用囲い等を平成29年度に納入されました。また、10数年来要望していたフィールド電光掲示板3台・写真判定装置と連動するフィニッシュタイマーウォッチ、電子式風速速報表示器(両面表示)等が6月までに納入される予定です。

更に、投擲競技で使用する砲丸(真鍮)、円盤・やり(外国

③70年分の記録整理

- ・過去70年の記録をPDF化の実施

【情報処理活動】

- ①ホームページを活用した新しい情報提供サービスの開始
 - ・年度途中でのランキング発表実施
(IH県予選前・県選手権前等)
- ②地区レベルでの情報機器活用促進・人材育成
 - ・競技会運営研修
 - ・競技会事前準備
 - ・公認申請データ作成研修
- ③IAAFランキングへの対応
 - ・実業団大会での実施検討

以上の取り組みを実施して改善を進めてまいりました。

(委員長 山下 和行)

製品)・ハンマー(タングステン)も数多くラインナップされております。私たち岐阜陸協の競技役員も施設、器具に負けないように使用方法等を熟知して競技運営に携わっていかねばならないと思います。

平成30年度は、中津川公園陸上競技場の公認検定が行われます。超音波風速計1台、気象観測用風向風速計1台、ウルトラライトハードル8台、ハードル運搬車1台等数多く追加購入があるようです。行政サイドとコミュニケーションを取っていただいている証しではないでしょうか。施設・用器具委員会としてもできるだけの協力をしながら各地区陸協の皆様とともに歩んでいこうと思います。

(委員長 杉山 美生)

女性委員会

女性委員会の主な活動は託児室の開設です。小さいお子さんがいて、審判依頼があってもなかなか出席できないのではないかと、ということで平成25年度より始めました。平成29年度は6競技会10回開室しました。前年度より引き続き来室しているお子さんたちもあり、仲良く遊ぶ姿が見られました。託児室は子どもたちにとって憩いの場となっています。平成29年度はのべ人数にして22名のお子さんを預かりました。

有資格者の保育士さん、学生ボランティアの皆さんがとても上手に子どもたちに対応していただけたので、子どもたちも安心して楽しく過ごすことができました。保護者の方も審判の空き時間に子どもさんの様子をみに来られても安心して再度審判に行かれました。女性審判員の子どものみだけでなく、男性審判員からの依頼もあり皆さんのお役に立てたのではないかとと思っています。

現在小さいお子さんがいて競技会から離れているという方も多くみえると思いますが、今後は審判員の子どものみだけで

なく、岐阜県登録で競技会参加選手からの依頼にも対応していきたいと考えています。親子共々陸上競技を楽しむつもりで参加していただけるママさん選手誕生を期待しています。

これからも女性審判員や女性競技者など、陸上競技に興味がある女性が少しでも多数参加できるような方法を考えていきたいと思っています。



(委員長 浅野 美津子)

医事委員会

【活動報告と今後の課題】

設立して3年目を迎えた本委員会は、関係各位のご理解とご協力があり、充実した活動ができたと感謝しております。

今年度も活動は、競技会への医師・看護師派遣と競技会に置けるトレーナー活動を主に行ってきました。新たな活動としては、4月のぎふ清流ハーフマラソンにおいて救護車の救護備品を整備しました。7月の第82回岐阜県陸上競技選手権大会においては、「トレーナールーム」開設と「スタジアム救護」活動を行いました。8月の第60回東海陸上競技選手権大会においても、同様な活動を行いました。両大会とも、多くのトレーナールーム利用者がいました。

活動内容は、怪我等の救護活動・マッサージ等のコンディショニング調整・長距離種目における熱中症への対応でした。嬉しいことは、医事委員会トレーナー部の認知が上がってきたことです。怪我の発生があったときもトレーナーがいるという認識が競技役員に浸透しており迅速な対応に繋がりました。今後も多くの大会でトレーナーをアピールすることで、競技役員とのコミュニケーションがと

れ、より良い救護や競技運営になると思います。さらに、7月には、日本陸上競技連盟主催の全国医務部長会議へ参加しました。平成30年7月には、第18回アジアジュニア陸上競技選手権大会における医事活動について報告する予定です。

また、愛媛国体では、事前合宿からトレーナー2名が帯同し、選手をサポートしました。課題もありますが継続していきと考えております。

今年度は、医事委員会の予算の充実もあり、組織的に活動することができ感謝しております。課題は、医事委員会の根幹に関わるものですが、ドーピング問題など、より専門的な観点から活動を模索する必要があると思います。本質的な問題も多くありますが、岐阜陸上競技協会のため、陸上競技選手のために活動していきたいと考えておりますので、さらなるご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

(委員長 河島 正弘)

広報委員会

【平成29年度 広報委員会活動報告】

新岐阜陸上競技広報誌も5号発刊を迎えることとなりました。これも関係部署、関係団体の皆様のお蔭と感謝いたしております。29年度は4号・5号の発刊と岐阜陸上競技ホームページへの広報誌掲載を行う事が出来ました。今後は更に内容の充実を図っていきたく考えます。ご協力をよろしくお願い申し上げます。

1.事業

- (1) 広報誌4号発刊(5月1日) ※県陸協HPアップ
- (2) 広報誌5号発刊(8月1日) ※県陸協HPアップ
- (3) 広報誌6号発刊と県陸協HPアップ予定
29年度後期号(4月下旬発刊予定)

2.活動報告

広報誌4号・5号・6号発刊準備作業関係について
広報誌広報委員会

- | | |
|----------------|---|
| 1月25日(水) | 広報委員会・4号・5号発刊編集会議(らんぶ・19:00～) |
| 3月16日(木) | 広報委員会・4号1次校正(らんぶ・19:00～) |
| 4月12日(水) | 広報委員会・4号2次校正(らんぶ・19:00～) |
| 4月28日(金) | 広報委員会・発送業務(らんぶ・19:00～) |
| 5月6日(土) | 広報委員会・4号発刊反省会(ながた・19:00～) |
| 5月13日(土)14日(日) | 中部実業団大会にて4号配布 |
| 6月12日(月) | 広報委員会・5号校正作業 |
| 6月16日(金) | 広報委員会・5号校正作業 |
| 6月19日(月) | 広報委員会・5号校正会議(らんぶ・19:00～) |
| 8月8日(火) | 5号発送配布 |
| 8月26日(土) | 東海選手権にて広報5号配布
広報委員会・反省会(さむしんぐ・19:00) |
| 8月27日(日) | 東海選手権にて広報5号配布 |
| 2月1日(木) | 広報委員会・6号・7号発刊編集会議(らんぶ・19:00～)
※29・30年事業計画案検討 |

- | | |
|----------|--------------------------|
| 2月2日(木) | 6号原稿依頼発送 |
| 2月27日(火) | 原稿締め切り |
| 3月初旬 | 広報委員会・6号1次校正(らんぶ・19:00～) |
| 3月初・中旬 | 広報委員会・6号2次校正(らんぶ・19:00～) |
| 3月中旬 | 広報委員会・校正原稿入稿 |
| 3月下旬 | 広報委員会・発送業務予定(らんぶ・19:00～) |
| 4月7～14日 | 競技会にて6号配布予定 |

3.広報発刊内容

4号・5号発刊部数 550部

- (1) 下記県内関係団体郵送・一般会員手渡し実施
県陸協役員・地区体協・県体協・郡市体協・スポーツ課・
県高体連・警察関係・一般会員
- (2) 下記県外関係団体へ郵送の実施
日本陸連・高体連・都道府県陸協・新聞社・放送局・関係
企業その他
- (3) 県内外バナー広告企業に郵送配布実施

4.活動予定と課題

- (1) 第6号広報誌発刊へ向けて
年度総括・東濃陸協記念事業関係・アジアユース大会情
報を中心として発刊予定
- (2) 岐阜陸協ホームページでの広報誌閲覧の関係部署との
連携と協力の検討・実施、及び発行部数の検討。

(委員長 木下 克己)

各地区陸協報告

岐阜地区陸上競技協会

1.第1回 岐阜地区陸上競技選手権大会開催

積年の願いでありました「第1回岐阜地区陸上競技選手権大会」を8月19日(土)岐阜メモリアルセンター長良川競技場にて、小学生121名・中学生222名・一般高校298名・合計641名の参加で開催することができました。優勝者は次の皆さんです。

一般高校

種 目	男 子	記 録	女 子	記 録
100m	坂下 大哉(岐阜聖徳高)	10.88	磯谷 友里(聖マリア高)	12.51
200m	藤本 峻介(岐阜経済大)	21.18	磯谷 友里(聖マリア高)	25.39
1500m	石田 健(岐阜高専)	4.09.89	加藤 愛結(県岐阜商高)	4.53.25
4×100mR	県岐阜商高	41.60	県岐阜商高	50.58
走幅跳	宮崎 豊(各務原TFC)	6m96	清水 葉月(県岐阜商高)	5m12
やり投	高須賀 稔(岐阜経済大)	61m40	安田 汀(岐阜経済大)	42m00

中学

種 目	男 子	記 録	女 子	記 録
100m	小森 達矢(長森)	11.68	渡邊 葉月(岐阜清流)	13.08
200m	水谷 優希(岐阜清流)	24.03	森 樺音(藍川)	26.50
1500m	大橋 優(羽島)	4.26.72	小椋 きらり(長森)	5.12.27
4×100mR	長森	46.71	岐阜清流	53.09
走幅跳	水野 聡大(藍川)	6m09	湯野宮 詩乃(羽島)	4m54
砲丸投	泉 貴也(岐大付属)	9m02	豊島 明香里(羽島)	10m18

小学

種 目	男 子	記 録	女 子	記 録
100m	浅川 修埜(穂積陸上)	14.38	内田 怜那(モアAC)	14.45
4×100mR	穂積陸上A	59.38	精華スポーツA	59.74

同時に小学生を対象に記録会も行い盛大のうちに無事終了することができました。

東濃地区陸上競技協会

【東濃地区陸上競技協会60周年記念事業開催】

平成27年度、飛騨地区陸上競技協会(以下飛騨陸協)が50周年の記念事業を実施され、平成28年度は(財)岐阜陸上競技協会(以下岐阜陸協)の70周年記念事業が行われました。2年続けて記念事業があり、我が東濃地区陸上競技協会(以下東濃陸協)は記念の区切りとなる年度はいつだろうということが話題になり、数人で手分けをして資料を探し始めました。

奇しくも同じころに、「おい。平成29年度が60周年に当たるようぞ!」ということになり、お互いに60周年に当たるとされる資料を持ち寄り検証しました。岐阜陸協及び東濃陸協の資料から東濃陸協の創立は昭和32年度ということが確認されました。

2.今後の課題

参加者が予想していたよりも少なく、とくに小学生の参加者が陸上スポーツ少年団所属者であり、小学校所属での参加が少数であったので、もっと多くしたいと思います。また、次回に向け実施種目を一般高校・中学・小学とも多くして、全体の参加者を増やしたいと思います。岐阜地区選手権を実施できたことで他地区と肩を並べることができました。将来的に全種目が実施できるよう一步一步前進したいです。また、今年度より設けた各委員会と全体の協調を取り、活動できる体制にします。



男子100m決勝



アベック優勝の県岐阜商高

(理事長 正村 菊雄)

まだ先の話と高をくくっていましたが、「もう今から基本構想を練らないと…」と焦りを感じるようになりました。そこで、取り敢えず、12月常任理事会に諮り、会長を顧問とし、本部役員で構成する「記念事業実行委員会本部会」を立ち上げました。この会で記念事業の概略を審議し、次に本部会に東濃陸協副理事長、各市の理事長を加えた13名で構成する「記念事業実行委員会」が承認されました。さらに、記念式典は実施し、時期は後日詰める・記念誌も発行し、内容は後日検討する等決定され、いよいよ具体的な内容を詰める段階に入ってきました。

まず、記念誌は、記念式典の様子も入れたいので年度内に完成を目途とし、記念式典の期日、内容を優先することにしました。

1. 記念式典の期日

東濃陸協はご存知のように、中日新聞社、岐阜県中日会東濃支部(役員と販売店で構成)から格別のご支援を頂いています。そこで、毎年、中山道東濃駅伝兼岐阜県駅伝競走選手権大会(以下中山道東濃駅伝)の前日に関係者で前夜祭を実施しており、この日に実施すれば中日新聞関係者も出席しやすいと考えられます。また、毎年、岐阜陸協からも来て頂いている為に、岐阜陸協の役員も出席しやすいことから、中山道東濃駅伝の前日(11月18日)と決定しました。

会場も中山道東濃駅伝の閉会式を実施する多治見市産業文化センター5階大ホールで行うこととしました。

2. 記念式典の内容

一般的な進行内容と、今回、永年、現役の審判として活躍されている5名(うち1名は故人)を、60周年を記念して「功労者特別表彰」の被表彰者とすることを決定しました。

3. 招待する来賓の決定

東濃各市県議、岐阜陸協関係、東濃各市代表者、中日新聞社・岐阜県中日会東濃支部関係、警察署長、交通安全協会関係、東濃体育協会・各市体育協会、協賛社、その他関係者、被表彰者で総勢50名を超える来賓となりました。

4. 案内状の発送

来賓としてご案内する方々は大変お忙しい方ばかりなので9月中に案内を送付することになりました。

5. 会場設営、進行内容、懇親会の業者決定などを順次進めていきました。

この時点までの反省として、組織を「実行委員会本部会」と「実行委員会」の2本立てとしましたが、メンバーの中には現職で勤めている役員もあり、実質は「実行委員会本部会」で立案、協議した内容を会長に報告し、常任理事会に諮るという手順となりました。平成29年度が始まり、あれも、これもと焦る中で、会議の日程は仕事の進み具合に応じて予定を入れなければならない、長期の予定を決められなかったので実行委員会のメンバーには申し訳ないことをたと反省しています。

いよいよ記念式典当日を迎えました。午後1時から会場にて、多治見陸協10名、土岐陸協10名の応援を得て、本部役員と共に会場の全体設営を行いました。そして、18時から式典が始まりました。

式典は、松原東濃陸協副会長の開会の言葉で開式されました。次に主催者を代表して高木東濃陸協会長が挨拶をし、続いて事務局よりパンフレットを基に東濃陸協60年の歩みについて概略の説明を行いました。次に、前述しました功労者、特別表彰の被表彰者が壇上に上がり、高木会長より表彰を受けられました。多くのご来賓をお迎えしましたが、次の方々よりご祝辞を頂きました。岐阜陸協 尾藤会長、東濃体育協会 水野会長、岐阜県体育協会 丸山監事、中日新聞 阿部岐阜支社

長の皆様です。当日の出席者は来賓53名、会員52名の合計105名でした。

式典を祝って祝電を頂きましたので披露させて頂き、また、中日新聞社、岐阜陸協、大垣市陸協、岐阜、西濃、中濃、飛騨の各地区陸協より会場を華やかに飾る生花を頂きましたので皆様に披露いたしました。誠にありがとうございました。

1部の式典は以上で、この後、懇親会の会場準備と休憩の間を利用して、ステージ前にて各関係の団体ごとに記念写真を撮影しました。

2部の懇親会の開始です。まず、主催者代表として高木東濃陸協会長の挨拶がありました。続いて、中山道東濃駅伝の継続、発展と、中断後の再開に大きな貢献をされたた中日新聞販売店代表の佐藤両藤舎会長にご挨拶を頂きました。

いよいよ「乾杯」です。乾杯の音頭は稲垣愛知陸協会長です。稲垣会長は土岐市出身で、多治見北高校4回生です。そうした関係から愛知陸協会長という立場で出席して頂きました。懇親会も和やかな雰囲気、和気あいあいと話が弾みました。中締めを地元の山本県議にして頂き、加藤東濃陸協相談役の閉会の言葉で締めくくりました。明けて11月19日は「第64回中山道東濃駅伝」です。早朝より中津川駅前に向かいました。好天に恵まれ、関係者一同ほっとしました。

現在は、役員一同、「60周年記念誌」の構成に追われている毎日です。



高木東濃陸協会長



高木会長と功労者特別表彰受賞者



尾藤岐阜陸協会長



乾杯



懇親会風景



中津川駅前のスタート

(理事長 安藤 功二)

西濃地区陸上競技協会

1.はじめに

近年の少子高齢化とスポーツの多様化により陸上競技を取り巻く環境は厳しいものがあります。中でも財政面、競技運営において大きな課題を抱えております。その対策として協会では試行錯誤を繰り返しているところですが、「これがベストだ」と言うものが見出されておられません。特に西濃地区主催の大会で競技役員の絶対的不足は深刻で根本的な解決策を図る必要が急がれます。この件については他の地区協会も同じような懸案事項と伺っていますが県陸協とも相談しながら対処して行ければと考えております。

さて、話は変わりますが今年の8月にロンドンで実施された世界陸上競技大会で4×100mRでリオ、オリンピックに引き続き堂々と銅メダルを勝ち取り加えて9月には桐生選手が日本人として史上初の100mで9秒98と言う記録を出すなど日本中から陸上界に対しその活躍に注目されています。

こうした中、我々地方の関係者としても大変嬉しく思い底辺拡大に微力ながら貢献できればと願うものであります。

2.主だった事業報告

西濃陸上競技選手権大会(6月)、いびがわマラソン2017(11月)、おおがきマラソン(12月)、中日西濃駅伝(2月)など参加選手も増加してきており更なる磐石の体制で楽しく安全に競技していただけるよう努めてまいります。

中濃地区陸上競技協会

【平成29年度活動総括】

30数年間中濃地区陸上競技協会の副会長として協会の発展のためにご尽力頂いた寺町義昭さんが29年11月4日に死去されました。

会員一同ご冥福をお祈り申し上げます。

中池公園陸上競技場の管理棟改修工事に伴い6月以降競技場が使用できなくなり、ナイター記録会や地区ジュニア大会を開催することができませんでしたが、工事に支障のない範囲で練習が行えるよう行政に粘り強く交渉を行いました。

9月9日には競技力向上と地区内の連帯感を高めることを目的として、選手76名、指導者19名の参加を得て地区ジュニア合同練習会を開催しました。(写真①)

また、昭和村ハーフマラソン大会やキウイマラソン大会および各市町の駅伝競走大会等のロードレース大会には多くの参加者を得て盛大に開催する事ができました。

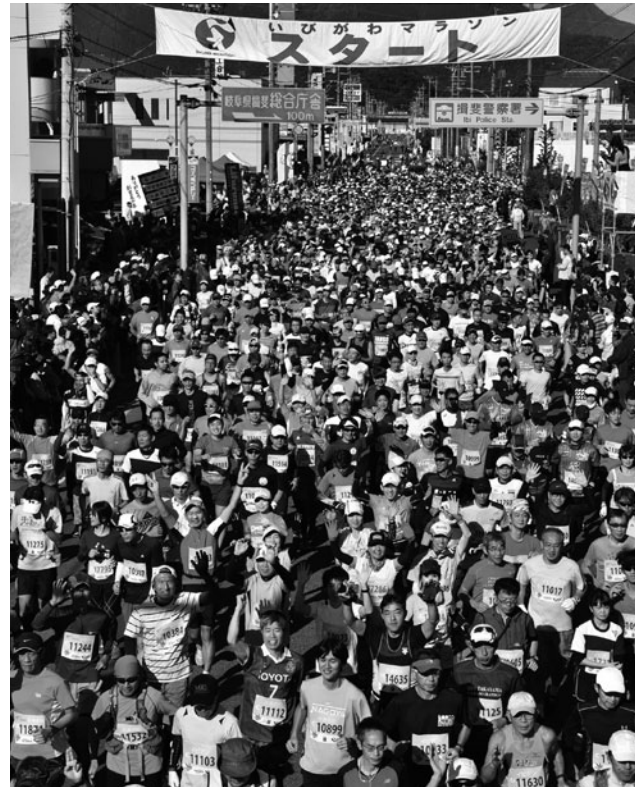
中池公園陸上競技場管理棟は3月10日に完成し、3月18日のせきシティマラソン大会をこけら落とし大会として開催しました。

「競技場愛称:中池かわせみスタジアム」(写真②)

4月以降は新しい管理棟でこれまで以上の競技会が開催できることを楽しみにしております。

3.結び

陸上競技は全てのスポーツ基本であり、その重要性は誰しも判っていますが、一人でも多くの人(特に小、中、高校生)に興味を持ってもらえるような啓発活動行うことが我々の役目と痛感するものであります。



(理事長 牧野安孝)

今後の課題

少子化に伴い競技者の減少傾向がみられるので、競技人口の拡大と選手の競技力向上および地区審判員のレベルアップを図るために普及記録会をはじめとして、県陸協主催の大会や合同練習会を1回でも多く開催していきたいと思っています。



写真①



写真②

(理事長 上野 悟一郎)

飛騨陸上競技協会

【「飛騨から全国へ」～飛騨地域の若者に夢と希望・挑戦する勇気を届ける取り組み～】

1.事業報告「オリンピック・メダリストによる講演会・講習会」

・主 催

飛騨地区陸上競技協会

・資金後援

(財)伊藤青少年奨学会

・期 日

平成29年5月6日(土)

・講演会

高山ビッグアリーナー

・講習会

午前:武道場(雨天のため)

スポーツ少年団員(小学生)

指導者約170名

午後:中山公園陸上競技場

一般、高校生、部顧問

コーチ約320名

・講師

塚原直貴(つかはらなおき) 富士通陸上競技部所属

2000年シドニー五輪 男子4×100mR 銅メダリスト*のちに銀メダルに繰り上げ(メダル獲得は日本選手の陸上競技男子トラック種目史上初)

(1)【講演】陸上人 ～ただ走ることが好きだった～

ただ走ることが好きだった塚原選手が、少年時代から数々の経験と多くの人との出会いを通して成長し、夢の舞台のオリンピックを体感するまでの道のりを語ってくれました。

どの選手でもそうですが、目標はひとつひとつ叶えることで、新たな目標が設定されます。当然、怪我に苦しんだり、成長の停滞が起こる時期もありました。思うようにいかないことや幾多の苦難を乗り越えた先には、夢の世界であったオリンピックの舞台は目標と変わっていました。シドニーオリンピックでは歴史の扉をもこじ開けるメダル獲得という夢の世界が現実となりました。仲間と共に駆け抜けたリレー競技では、世界中が注目する大歓声に包まれ異常な高揚感と興奮のなかで、自分を信じぬき全力を出し尽くした感動の結末となりました。夢を追い続ける感動を語ってくれた講演となりました。

講演後、小学生は塚原選手とハイタッチで、中・高校生はシドニー五輪のメダルを実際に手にしました。

(2)【技術講習会①】

小学生の部(午前)雨天のため、武道場の畳の上での実施となりました。裸足になり、足裏感覚や指を使うことの重要性を確認するトレーニングを遊び感覚で体験しました。

その後<歩行>→<スキップ>→<サイドステップ・リズム運動>のなかでバランスよく体をあつかう感覚を養いました。走りを体幹(骨盤)が動かす感覚を身に着けるための<お尻歩き>もやってみました。



神経系に刺激を与え、巧緻性を身に着ける＜コーディネーショントレーニング＞→＜ダッシュ＞で競争心を刺激します。

最後には全ての子供たちが塚原選手とハイタッチを交わして一生の思い出となりました。



(3)【技術講習会②】

中学・高校生の部(午後) 中山公園陸上競技場

天候の回復により、屋外での実施をすることができました。ハードルを使った体への気づきと地面からの反発をもらって前へ進むトレーニングを実践してみました。専門的な練習に目を輝かせながらトレーニングを重ねることができました。また、一流選手の動きを実際に目の当たりにしている生徒達の姿が生き生きとしていました。

(4) 飛騨地区の陸上競技について

豊かな自然と冬の厳しい気象状況に育まれた飛騨の子供たちは純粋でたくましく育っています。少子化の波は飛騨にも押し寄せていますが、だからこそ、地域との関わりを大切にして自分の育った故郷を愛する人に育ってほしい。そして子供達がスポーツを通じて夢を目標に変える全力の挑戦のなかで心の視野を広げて、多くの広い世界を知ってほしいと思っています。子供達にとっては特別な経験であり、超一流に触れるという財産を運んでくださいました。

“飛騨から全国へ羽ばたく!”



2.飛騨地区長距離合同合宿報告(中学生・高校生)独立行政法人乗鞍青少年交流の家

(1)目標(ねらい)

約200人の集団が寝食を共にして生活・練習を行う中で、お互い気持ちよく生活するための生活マナーを学び、互いを認め配慮するなかで、自分の役割をみつけ果たし仲間のために行動するなかでボランティア精神を育む。

また、青少年交流の家の宿泊であり、それぞれの団体の研修目的と活動の違いを理解したうえで、相手を尊重し配慮した行動がとれるようになる。

(2)取組内容

8月16～19日 3泊4日



・1日目 開校式

長距離選手の栄養学講座meiji



・2日目 先輩から学ぶ

青木 和(名城大学3年)

チーム対抗ミニ駅伝



・3日目 体と心を整える

塚中一成(益田清風高)

・4日目 閉校式

(3)生活基本

5:00 起床

6:00～7:30 朝練習シャワー・朝食・清掃活動

9:30～11:30 学習・ミーティング

昼食

・学習

・休憩

15:30～17:30 午後練習

風呂・夕食・グループミーティング

19:30～20:30 ミーティング

生活ミーティング

就寝



(4)実践において工夫した点

生活と練習のグループ分けにおいては、できる限り学校単位の枠を外した人員構成に配慮した。練習・生活共にグループで行動することで相互理解を図り、チームに対する帰属意識と他のグループよりも一体感を感じられるための競争意識を持てるようになった。生徒達を中心に、オリエンテーションから始まり、生活の約束ごとの確認・書き出し、部屋での過ごし方、参加者の体調把握と確認、練習の進め方について考えた。合宿をつくる一員として自覚し、健康で活気ある体験をして、各学校に帰ってからの取り組みに生かせるように工夫した。

(飛騨陸協 強化部長 塚中一成)

関係団体(協力団体)

岐阜県中体連陸上競技専門委員会

【平成29年度の中体連取り組み総括】

1.今年度の振り返り

中体連では、「全日本中学校陸上競技選手権大会」と「ジュニアオリンピック」の2つの全国大会で活躍することを大きな目標と考えて取り組んでいます。強化選手を毎年選考して、定期的に強化練習会や合宿を通じて、「技」「体」「心」「生活」「仲間」を大切に、チーム岐阜(選手・スタッフ)としての意識をもって日々活動しています。

今年度の全中熊本大会では、30名の選手(リレー人数も含む)(全国大会参加標準記録突破)の出場になりました。結果については、飛騨神岡中学校の岩垣勇司君が400mで見事優勝(県中学新記録)、美濃加茂西中学校の三輪哉太君が走幅跳で4位という2名の全国入賞を果たすことができました。東海中学では、長森中学校の加藤慎之介君が200mで優勝(県中学新記録)島中学校が女子4×100mR優勝を筆頭に個人種目21名の入賞者という結果を残すことができました。

また、ジュニアオリンピックでは、35名の選手が出場し、中山中学校の岩島共汰君が3000mで6位同じく中山中学校の瀬木彩花さんが1年800mで5位、金山中学校の細江悠仁君がジャベリックスローで7位という3名の全国入賞を果たすことができました。そして、全国中学駅伝(滋賀県開催)では、高山市立中山中学校が男女アベック出場を果たし、男子では岩島共汰君が4区で見事区間賞を取るなどの活躍で、岐阜県勢過去最高順位の6位入賞という快挙を成し遂げてくれました。女子も1・2年生中心ながら13位と健闘し来年度がとても楽しみな結果となりました。

2.中体連の取り組みについて

(1)強化選手の育成・強化

次年度には、最低でも「全国参加標準記録を突破できる者」、もしくは「それ以上に結果を残せる者」を選考の基準として、「岐阜県強化選手」として選考しております。選ばれた選手は、強化ジャージを着ることができるだけでなく、「強化練習会」「強化合宿」での練習を通じて、県強化スタッフによる各種目での技術指導を中心として、個のレベルアップを図っております。また、昨年度からの継続で原田メソッドを導入し、それをもとに岐阜独自のシステムを確立させ、新たな取り組みをスタートさせました。「目的・目標設定用紙」「ルーティーンチェック表」「日誌」「オープンウィンドウ64」をもとに、目標の明確化、メンタルトレーニングの導入、組織を再建させる原則、個人のやる気を育てるなど、原点に立ち返り、指導に当たることを重点として取り組み始めています。

(2)次年度の全国大会の会場で練習する

全国大会では、岐阜県以外の競技場であり、初めての場所での大会となるため、まずは全国大会の会場を知り、そこで練習することが大切であると考え、3月には「来年度の全国大会の会場」で合宿をしています。自分が数ヵ月後に、この会場で勝負するという気持ちを持たせるためにも、とてもよい取り組みだと考え、毎年実施しております。会場の雰囲気やトイレの場所、アップの場所など、直接見ることができることで、安心して本番の大会にも向かうことができます。

平成30年度は、来年度の全中会場となる「岡山県」で3月17日、18日の1泊2日で強化合宿を予定しています。自分自身の最高のパフォーマンスを最大限発揮するために、本番会場で現地を見学することは、今後の練習へのモチベーションも上がるため、さまざまな効果があると考えています。

(3)県内だけでなく県外の練習会に参加する。

県強化スタッフだけの指導に留まらず、県外の優秀な指導者に指導していただく場も入れております。

11月から始まった強化選手の育成・強化の取り組みでは、関東や近畿など複数回練習会に参加しました。やはり全国レベルの高い選手との練習や優秀な指導者の考えを学ぶことで、選手だけでなく、指導者のレベルアップも図ることができました。強化スタッフが他県の強化練習会に参加したり、他県の駅伝強豪校と練習させてもらったり、強化の枠を飛び越えて、さまざまな機会を設けて練習に意欲的に取り組む姿が見られました。また、課題でもある陸上競技を専門とする顧問がいない中学校の部活動も数多くあります。そういった顧問の先生にも強化練習会に積極的に参加してもらい、普段の部活動に生かしてもらおうと考えています。

3.今後に向けて

県強化スタッフを中心に、強化練習会や強化合宿を定期的に行いながら取り組みを行っております。強化合宿や強化練習会の際には、原田メソッドを取り入れ、再度、目標を明確にして、その後の練習に活かせるように指導をしています。昨年度から継続して行っているこの取り組みは、少しずつ岐阜システムの確立へとつながっています。来年度も全国大会上位で活躍できる選手をこのチーム岐阜から育成したいと思っています。

(専門委員長 吉田 靖)

岐阜県高体連陸上競技専門委員会

【高体連平成29年度総括】

本年度の全国高校総体は、7月29日より8月2日まで山形県総合運動公園にあるNDソフトスタジアム山形で開催されました。岐阜県勢は6月に愛知県で開催された東海ブロック大会を勝ち抜き、男子15種目23人・女子9種目7人が出場しました。男子4×100mRでは、岐阜聖徳学園が予選、準決勝を順調に勝ち進み、決勝で42秒29の東海高校新、県高校新記録でこの種目、県勢初の優勝を果たしました。男子砲丸投に出場した稲福颯選手(市岐阜商)は、2年生ながら2位入賞。優勝まで2cmと迫る好記録でした。この種目8位入賞を果たした山下航生選手(市岐阜商2年生)とともに来年のインターハイでの活躍が大いに期待されます。女子では七種競技に出場した高瀬唯奈選手(県岐阜商)が、この大舞台で自己記録を100点近く更新し6位入賞を果たしました。

この他の全国大会では、8月に大阪市で行われた全国選抜大会において、女子ハンマー投の白木七星選手(市岐阜商)が県高校新記録で2位、女子7種競技で高瀬唯奈選手(県岐阜商)が4位、女子5000mで加藤優果(土岐商)が5位、男子300mで國枝温樹選手(土岐商)が6位入賞を果たしました。

また、10月に名古屋市で行われたU18日本陸上競技選手権大会において、男子砲丸投で山下航生選手(市岐阜商)が2連覇、同じく稲福颯選手(市岐阜商)が2位となり、2年連続での1位2位独占という昨年に続く快挙となりました。さらに山下選手は円盤投においても県高校新記録で優勝し、2種目を制しています。また、男子110mHでは、多和田旭選手(大垣商高)が7位に入賞しました。

なお、山下選手は5月20日(土)から23日(水)までバンコク(タイ)で行われた第2回アジアユース陸上競技選手権大会に日本代表として砲丸投と円盤投に出場し国際舞台も経験しました。

最後になりましたが、今年度の大会開催に際しまして、一般財団法人岐阜陸上競技協会・岐阜県教育委員会・岐阜羽島警察署・岐阜南警察署・毎日新聞社を初め多くの関係者の方々に多大なる協力をいただきました。心より感謝申し上げます。

また、補助員を快く引き受けてくれた高校生諸君、また顧問の先生方の役員派遣にご配慮いただきました各校の校長先生に心より感謝いたします。今後とも陸上競技専門部の活動にご理解をいただきますとともに、ご支援を賜りますようしくお願いいたします。

(委員長 沖村 敏寛)



次号紹介

7月初旬発行予定です

編集委員

木下 克己
河野 康彦
土屋 雅敏

原 清隆
江崎 尚
坂谷 幸紀

山田 緑
渡邊 宗治